

様式第1号（第4条関係）

2017年6月27日

病院長選考会議議長 殿

推薦代表者

村上 邦成 

病院長候補者の推薦について

国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考に関する規程（平成29年規程第47号）第4条の規定により、下記の者を別添病院長候補者推薦書のとおり推薦します。

記

病院長候補者

門田 淳一



## 病院長候補者推薦書

(ふりがな) 氏名 (年齢)	むら かみ かず なり 村 上 和 成 ( 58 歳)
現 職 (又は最終職名)	大分大学医学部消化器内科学講座 教授
<p>推薦理由</p> <p>門田淳一先生は現在、副学長・理事（研究・社会連携・国際担当）として大分大学の運営に重責を果たしておられます。門田先生を附属病院長候補として推薦する理由に関して、附属病院長の選考規程の選考の基準（第3条）に従って以下に説明します。</p> <p>1）門田先生は誠実、謙虚かつ温厚な人柄で、協調性に富み、診療科医師やスタッフから深く信頼されています。また行動力、組織をまとめる能力に優れ、内科学講座再編に際しては内部調整に尽力され、再編後は内科運営委員長としてオール内科での診療・教育体制を構築されました。</p> <p>2）教育面では、理事就任前は呼吸器・感染症内科学講座教授として卒前医学教育に深く関わり、また、卒後臨床研修センター長として研修医教育にご尽力されています。地方大学において研修医獲得が困難な状況のなか、附属病院と医学部との連携強化に努め、研修医との対話をもとに研修医の立場に立った研修・教育環境の改善に着手され、低迷していたマッチング率の向上に寄与されました。平成30年から始まる新専門医制度ではますます医学部と連携した取り組みが求められますが、新制度に深い見識を持たれている先生のリーダーシップにより、多くの専攻医を獲得し、若い医師が生き生きと活躍できる附属病院となることが期待されます。</p> <p>3）診療面では、呼吸器・感染症内科の診療科長として質の高い医療の提供を推進してこられた実績をもとに、特定機能病院として高度医療の提供・開発、および academic physician が満足して働ける環境整備への強い意欲を持たれています。</p> <p>4）医療安全面では、長きにわたり感染制御部長を務められ、関係する部署と協働しながら院内の様々な問題の解決にあたり、新たな感染症の危機への対応とともに県全体の感染制御にもリーダーシップを発揮してこられました。また、感染制御・医療安全を担う人材育成に貢献され、新たに設置された医療安全管理医学講座の基礎を築かれました。</p> <p>5）学術面では、わが国の呼吸器・感染症のオピニオンリーダーとしてご活躍されており、公益社団法人日本化学療法学会理事長をはじめ、多くの学会理事を務められておられます。学術的価値の高い医学論文を多数発表するとともに、多くの若手研究者を輩出しています。</p> <p>6）地域医療への貢献という点では、呼吸器・感染症内科学講座長として臨床研修病院・地域中核病院と連携して地域における呼吸器・感染症診療の質向上に尽力されてきました。また、内科運営委員会議長として地域への内科医師派遣の調整にも責任を果たしてこられました。門田先生は大分県、県医師会に幅広い人脈を有しておられ、その連携を強化することで大分県の地域医療のさらなる向上が果たされるものと思われまます。</p> <p>7）病院の運営という点では、診療科長、また副病院長として病院運営のご経験があり、管理運営面ではバランスのとれたご意見を持たれ、見識も高く、意志疎通を積極的に行い、円滑な組織運営に優れた手腕を持たれております。現在は理事として大学運営に関わっておられ、そのなかで附属病院の今後の在り方について明確なビジョンを持たれています。</p> <p>以上のように、門田淳一先生は学識に優れた人格者であり、大分大学医学部附属病院の使命である高度先進医療の推進、医療安全の確保、医学研究の推進、地域医療発展への貢献、医療人材の育成の全てに多くの経験と実績があり、故野口隆之病院長、津村弘病院長が心血を注いで完遂させた病院再整備・病院改革をさらに発展させるとともに、大分県医療の向上に貢献いただける方でありますため、大分大学医学部附属病院長として推薦いたします。</p>	